



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／矢島 實
- 副会長／矢島 進・井上保子
- 幹事／矢崎宏明
- 会報・雑誌・広報委員長／笠原祥一

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL:<http://okayarc.org>・E-mail:okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2524 回例会 2011 年（平成 23 年）6 月 7 日（火）

点 鐘：矢島 實 司 会：原 史郎
 斉 唱：君が代・奉仕の理想 ラッキーNo.：No. 17 山岡正邦
 皆 勤 祝：北村正春 10 年
 誕 生 祝：小口雅弘・井上保子
 結 婚 祝：小口哲男・宮坂 伸・白鳥修次

誕生祝



会長挨拶

6月4日付けの信濃毎日新聞や岡谷市民新聞に掲載されて皆様もお読みになったかもしれませんが、照光寺様の蚕霊供養塔と木造馬鳴菩薩坐像が市有形文化財に指定されたそうです。この二つは昭和9年世界不況のあおりを受け、休業や倒産を余儀なくされる事業が多かったため、関係者が蚕霊を慰め、蚕神を祭って製糸業の発展を祈念しようと建立したとのことでした。

供養塔はすでに経済産業省が2007年度「近代化産業遺産」に認定しており、二つとも岡谷市が世界に誇る一大製糸業地帯であったことを伝える文化財といえます。

先日までにぎわっていた鶴峰公園のつつじも大製糸家片倉家の隆盛を今に伝えるものですが、お蚕様とともに発展してきたこの岡谷市の歴史を思うとこれから、この地からまた世界に誇れるような産業がおこることを願わずにはられません。

幹事報告

理事会で承認されました。

- ・ 親睦バスハイクの中止に伴って出た、余剰金 25 万円を栄村災害義援金として送ることを決めました。栄村には 4 月に 20 万円送金しておりますが追加送金ということになります。また、ニコニコボックス委員会より皆様のご協力により予算を上回る予想ですので、今期もつつじが丘学園に社会奉仕委員会を通じ 5 万円の寄付をしたいとおもいます。
- ・ 次週例会に入会される新会員の所属委員会は年度末という事もあり配属は保留という事に決まりました。
- ・ 「おはなしだいすきポポーの木」より寄付の依頼が来ましたが、今年度では対応できないので次年度に申し送りとします。

委員会報告

社会奉仕委員会 6/5 の諏訪湖及び河川一斉清掃には早朝から大勢の方のご協力ありがとうございました。



卓話「被災地で私が感じたこと」

太田博久会員

5月の23日～25日の3日間、諏訪仏教会青年部にお声掛けをいただき、宮城県石巻市にボランティアに行きまして。石巻市の法山寺を拠点に、上伊那仏教会青年部の方々が中心に運営をされている団体に加えていただき、主に牡鹿半島の女川原発から約5キロの距離にある荻浜地区という漁港で、民家の瓦礫の撤去や入り江での漁具の回収作業のお手伝いを、被災された現地の方々と一緒に行ないました。拠点となった法山寺は、震災直後の一時期、避難された300人程の方々が孤立状態にあった場所だそうです。

荻浜地区の主要産業はカキの養殖業で、震災以前の漁港には、無数のカキの養殖設備が所狭しと浮かんでいたようですが、今は壊れてしまった設備がひとつ浮かんでいる以外は、まったく跡形もなく流されてしまっていました。その設備の漁具は、全てあちこちの入り江に散乱して打ち上げられていたり、山の斜面や木々の枝に引っかかっている状態でした。その中から、まだ使えそうな浮の役目を果たす「タル」やカキの稚貝を吊るすロープや、カキを入れるカゴを回収し、船に乗せて港に運び、泥だらけになったロープを乾かしてほぐす作業等を行ないました。

また、見た限りでは付近の建物の7割が基礎だけを残して流されていて、2割は完全に倒壊し、かろうじて形の残った1割のうちの1軒のお宅で、瓦礫の撤去作業を行ないました。撤去作業とは言うものの、それは復旧作業と呼ぶには程遠く、6月1日以降に予定をされている自衛隊による大規模な瓦礫撤去作業の前に、各自が家の中から必要な物を持ち出すために、家の中を探せる状態にするための作業で、ドロドロになった畳や襖やタンスや冷蔵庫を家の外に投げ出すものでした。それらを片付けても、その下は、依然として水が減った田んぼの泥の中に洋服や食器や本等の生活用品が埋もれているという状態でした。

報道では、被災地では何とか復旧や復興に向けた歩みが始まっているという情報が増えていますが、この荻浜地区では、まだそのはるか手前を地道に、文字通り泥だらけになってやっと歩き始めたという印象でした。この現場だけで全てがわかるわけではありませんが、このような地域が実際にはまだ数多くあるのではないかと思います。被災地全体が復旧できるまでには、相当な時間と人手が必要なのではないかと思います。

また、ボランティアに行く前に調べたところでは、被災者にとっては大切な品々があるので、瓦礫の撤去等の際には現地の方々によく確認するようにとの注意事項がありましたので、漁具の回収の際に、小学校の卒業時に友達に寄せ書きをしてもらったらしいランドセルやアルバムを見つけると、何か思い出の品を探す貢献ができたような気がして、一緒に作業をしていた現地の方に勇んで確認をしてもらいました。しかし、少し確認をただけで「要らないよ…」と言われてしまった時には、「俺たちは思い出に浸っている場合ではない。これから生きていくために仕事に復帰することに必死なんだ」と無言のうちに言われたような気がしました。

石巻市街地の避難所となっている中学校に行った際には、被災地が抱える複雑な事情も知りました。この中学校は、高台の閑静な住宅地にあり、付近の住宅は全く津波の被害を受けていませんでした。しかし、話によれば、この被害を受けなかった住民の皆さんは、当然避難所に入れる対象者ではないので、実は現在も、電気もガスも水道も通っていない自宅で苦勞しながら生活せざるを得ないのだそうです。ライフラインの復旧作業は、当然被害の大きかった地域から進められているので、被害のなかった地域には未だに手が回っておらず、無傷の自宅で、誰の支援も届かない中で苦勞が続いているのだそうです。被災という言葉に含まれた複雑で多様な側面を知らされました。

3日間を通して感じたことは、やはり報道から得る情報を通して感じていたこととは違う現実があるということです。自分の目で見ると被災地には、文字通り言葉を失うような壊滅的な状況が広範囲に広がり、圧倒されてしまいました。また、震災発生から70日以上が経過しているにもかかわらず、未だ復旧と呼ばれる地点のはるか手前を、現地の人とボランティアが協力して一歩ずつ進み始めている状態なのだと思います。そして、そこにはなぜか、自衛隊と消防と警察を除いては、国や県や市町村といった行政の力を感じるものがほとんどなかったことが残念でした。もちろん、場所によって異なるでしょうし、私が感じられなかっただけかもしれませんが。

被災地から離れた私たちが感じる「大変さ」とは、何人亡くなったのか、どれだけ被害が大きかったのかといった観点になりがちですが、現地で感じる「大変さ」とは、人間が生きていくこと、生活することそのものの「大変さ」だったように思います。

ニコニコボックス

太田博久 本日は「被災地で私が感じたこと」という題名で卓話をさせていただきます。よろしくお願いします。

佐藤有司・白鳥修次・高木昭好・竹村一幸・山崎典夫・小口雅弘・小野 仁・笠原祥一・小松正二・杉田隆夫・原 史郎・藤森睦美・宮坂 伸・宮坂宥澄・矢崎宏明・矢島 進・矢島 實・山岡正邦 太田博久会員、卓話をよろしくお願いします。

小口成人・小口泰史・北澤洋之介・小松正二・佐藤有司・高木昭好・武井利夫・中嶋孝一・中畑隆一・濱 透・濱 俊弘・林 裕彦・林 靖高・宮坂宥洪・宮坂宥澄・宮澤由己・山岡晴男・山岸邦太郎・塚田保則 照光寺蚕霊供養塔と馬鳴菩薩像を始め関係文献が岡谷市有形文化財に指定されました(5/9 付)おめでとうございます。

井上保子・梅垣和彦・竹村一幸・林 靖高 早朝より諏訪湖清掃お疲れ様でした。

出席報告

会員数46名、出席者35名、出席率76.08%、前々回訂正69.56%

2010-2011 年度 R I テーマ
地域を育み、大陸をつなぐ
BUILDING COMMUNITIES
BRIDGING CONTINENTS

